



三 愛 学 園

児童養護施設さんあい

一時保護施設

三愛子ひつじ寮

社会福祉法人 三愛学園

〒369-0212 埼玉県深谷市榑挽 15-2

Tel 048-585-0605 Fax048-585-0562

Mail san-ai@isis.ocn.ne.jp

URL san-ai-jidouyugo.org



受けるより与える方が幸いである

理事長 高瀬一使徒



6月に開催された法人の理事会と評議会で令和5年度の決算が承認されました。

令和4年度は赤字でしたが今回は黒字にすることができ法人全体の財政を預かるものとして胸をなでおろしています。資金収支のバランス、特に人件費支出は引き続き余談を許しませんが、福祉事業はよい人材が与えられて初めて良いサービスが可能になります。今後も職員の待遇面には十分に配慮した運営を心掛けたいと思います。また、物価高騰の時節柄、近隣の農家の方々からのお野菜の寄付、様々な支援者による生活用品の寄付、そして法人への寄付金が収支バランスを支える結果となっております。ありがとうございました。

聖書は、「人は、受けるより与える方が幸いである。」と説きます。与えてくださる皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。同時に法人として子どもたちや職員に与える（貢献する）ことを第一にしてゆきたいと考えています。そして、支援を受ける子どもたちが、いつか与える幸いを経験できるような支援を目指して行きます。それはまさに法人の養育目標である、「思いやりのある子」に合致するところです。

支えあいのネットワーク

さんあい施設長 平本実



理事会への活動報告を取りまとめる作業を通して、令和5年度をあらためてふりかえりました。昨年5月、ようやく新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行し、子どもたちの生活や活動が以前の姿に戻っていく1年でした。発熱者が出ると職員は防護服を着て、通院先の手配や食事のアレンジ、勤務体制の変更などに奔走した日々が遠い昔のようです。不自由を我慢した子どもたち、奮闘してくれた職員一人ひとり、そして苦しい日々を守り導いてくれた神様にあらためて感謝をしました。

行動制限緩和を受けて、昨年は4年ぶりに創立記念行事である「さんあいまつり」を外部のお客様を招き、以前の規模で実施しました。私自身を含めて“コロナ前”を知らない在職年数の浅い職員にとっては、さんあいが本当に多くの方々に支えられていることを実感する機会でした。今年も昨年同様に開催でき、今後もそれが途切れることがないように願うばかりです。

支えといえば、施設長就任1年目の私にとって埼玉県内の22の児童養護施設が集まる協議会への参加は大きな力となりました。それぞれ設立の理念や経緯の異なる施設が、情報交換や研修を通して研鑽を積み、共通の課題に取り組んでいます。約600施設が加盟する全国協議会にもつながっています。高瀬美武初代園長がまとめ役となって始められた協議会のネットワークが、今のさんあいの支えになっていることに神様の導きを感じます。

子どもを守る仕事はひとりではできません。そのために多くの働く人、支える人が与えられていることを感謝するとともに、この働きの輪にこれからもたくさんの人が加わってくれることを願います。

さんあいまつり～創立記念祭～

今年のさんあいまつりは低気圧が近づき天候に不安があった中にもかかわらず、昨年同様に地域の方々をはじめ、卒園生や支援者の方々などたくさんのお客様に来場いただき盛大に開催することができました。

ご協力くださったボランティアの皆様、出店していただいた支援者の皆様、キッチンカーの鐘撞堂カフェ、焼きたてメロンパンのハッピーハッピー様、バザーに日用品やお野菜を寄付してくださった皆様ありがとうございました。

アトラクションで盛り上げていただいたキッズダンスや龍神太鼓の皆様、いつもさんあい子ども達にダンスを教えてくださいださっているインカ先生にも感謝です。

ご来場してくださった全ての皆様のおかげで、無事にさんあいまつりが開催できたことに、子どもたち、そして職員一同心より感謝申し上げます。今回もバザーや出店の売上げの一部はウクライナ避難民、タイの児童養護施設、卒園児のために用いさせていただきます。

オープニングセレモニー（キッズダンス）・開会式



子ども達のお店



模擬店・支援者の方々のお店・アトラクション



おかえりなさい♪

～同窓会～

今年の同窓会には元職員6名、卒園生9名の計18名（卒園生のお子さん3人を含む）の参加がありました。同窓会の前に開催されていたさんあいまつりは、途中で雨が降り出し、片付けに手間取ってしまったため、同窓会の開始が予定より遅れましたが、その間も元職員と卒園生たちは思い出話や近況報告に花を咲かせていました。



同窓会恒例のビンゴ大会ではなかなかビンゴにならず、思わず数字をリクエストする声が上がって笑いを誘っていました。
集合写真撮影後はみな笑顔で、「また来年会いましょう！」と声を掛け合い散会となりました。



2023年度さんあいケアワーク総括

女の子ブロック（河村主任）

昨年度からメンバー変更なしで始まった「ねむのき」。料理や工作が得意で、優しい言葉を掛けてくれる子どもたちが揃いました。特別部屋外出は、福島県のハワイアンズとリカちゃんキャッスルへ。ハワイアンズでは様々な種類のプールの多さに「すごーい！」と目を輝かせ、リカちゃんキャッスルではコスプレをしてしっかりポーズを決める子どもたちに、職員も思わず笑みがこぼれました。年度途中で小6児童が退所し、新たにまた小5

児童を迎えました。3月には、長年さんあい

で過ごしてきた高3児童が退所。退所前の寂しさを受け止めつつ、当日は「頑張っ
てね！」と笑顔で送り出しました。令和6年度は地域小規模となり生活拠点が変
更となりますが、これからも家庭的な雰囲気を大切にして、たくさんの「ありが
とう」が飛び交うお部屋を作っていきたいです。新たに未満児の女の子を迎えた



「いちょう」。久しぶりの1歳児の受け入れに、年度初めから職員皆が戸惑いまし
た。さんあいまつりでは、一番目立たない端のお部屋であるにも関わらず、職員や子
どもたちの呼び込みもあって大盛況。「子どもと職員と一緒に楽しむ」を体感できま
した。特別部屋外出では、茨城県のアクアワールド、日立市かみね公園へ。BBQや
ピザ作りも体験しました。年度途中で中学生が退所し、新たに幼児を迎えました。こ
の1年は、保育園や小中学校等の学校や医療機関との連携だけでなく、子どもたちの

体調面の配慮やトラブルが起こらないような環境調整等、危機管理意識を高く持つことの大切さに気付かされた1年
でした。新たに高校生1名を迎えてスタートした「ポブラ」。今年度は幼児が2名いることで、毎日がお祭り騒ぎで
した。そのおかげか、自然と面倒見が良くなる小中高生たち。幼児のわがままも、「しょうがないな、こっちおい
で」と言って一緒に遊んでくれる姿に、職員は何度も助けられました。特別部屋外出では、那須動物王国、那須ハイ
ランドパークへ。動物と触れ合い、美味しいものを沢山食べ、アトラクションに乗り、夜遅くまでカードゲーム…そ
の名の通り、全てが特別な時間となりました。今年度も長期休みには「リビングで雑魚寝」を実施しました。そんな
ポブラさんは、絵が上手な子、工作が得意な子、運動神経抜群な子…と様々な個性を持つ子どもたちが集まっていま
す。これからも一人ひとりの個性が輝くよう、様々な機会を作っていきたいと思います。これからも高いアンテナを
持ち、様々な特徴を持った子どもたちが安心安全に過ごせるお部屋を作っていきたいと思います。



男の子ブロック（加藤主任）

昨年度末に高校を卒業した2名が退所になったことで、未満児男児と小1男児を受け入れて今年度のスタートを
切りました。しかし、昨年度末に施設内で不適応を起こしてしまった高1男児が6月に自立援助ホームに入所とな
ったことでさんあいを退所しました。そこで、新たに小4男児を迎え入れて再スタートを切りました。ここ数年、さ
んあいでは高齢児が退所すると、新たに低年齢児を受け入れる流れとなっています。そこで今年度の児童構成は、男
の子ブロック在籍児童の3分の2が小学生以下となりました。毎日のように日中は子どもと職員の賑やかな声が響
き渡り、夜になると日中の騒がしさが嘘のように静まり返る日々でした。今年度、進路を控えていた中3男児が3
名いましたが、内2名は精神面の体調を崩し、1学期～夏休みにかけてそれぞれ入院をすることとなりました。退院
後は、各々の体調に合わせた生活が送れるよう関係者とも協議を重ね、進路については、さんあいとしては初めてと

なる通信制高校と定時制高校への進学を決めました。残りの男児 1 名は在籍していた支援学校中学部から高等部に進学しました。年度末には小 2 男児と小 4 男児が家庭復帰することになり、子どもたち職員そろって別れの挨拶を交



わし、送り出しをしました。さんあい在園中は、毎日のように喧嘩をしたことも、振り返ってみたら大切な思い出の 1 つとなります。いつもいた仲間が目の前からいなくなることへの寂しさを涙で表現する児童もいました。職員としては、必要な準備が整え



られ、家族のもとへ送り出せたことは、それまでの苦労が報われる喜びの瞬間でもありました。さんあいで生活をする子ども達が入所に至る経緯は様々で、入所中から退所に至るまでの状況もそれぞれ異なります。全員が家庭復帰する訳ではなく、新しい居場所、人とのつながりをみつけて巣立っていく子たちもいます。日々子ども達とのかかわりの中から、最終的にその子にとっての最善の利益が何かを考えて選択ができるよう支援をしていけたらと考えています。

一時保護所（男の子）

男の子オリーブが開設し 2 年目に入りました。年度が変わり新たに受け入れた児童の人数と



しては 18 名と昨年度と比較して少ない結果となりました。女の子オリーブと合わせても 31 名でした。児童の保護期間が長期になるケースも多かったことが主な要因といえます。また、兄弟姉妹ケースの受け入れも 5 件あり、施設内でもきょうだ

いだけでの外出を行なうといった家族のつながりを意識した取り組みも積極的に行いました。昨年度は、外出も多く計画し、保護される前の家庭では経験したことが無いことなどに触れる機会を得た児童もいました。また施設内保護所である強みとして、本園の施設行事にも参加し、季節や文化を感じる体験もできました。保護委託される児童の多くが、心理面や発達など複合的な課題を抱えています。そのような子どもたちにとって安心・安全を感じる事のできる空間を作るよう努めるとともに、オリーブを退所した後に適切な養育が受けられるよう、課題を見抜き、支援に活かすアセスメント力の向上も図っていきます。（加藤ケアワーカー）

一時保護所（女の子）

児童の入退所により、児童間の関係や職員の関係も日々、変化していきます。昨年度は例年



よりも保護期間の長い児童が多く、その関係性も変化の少ない 1 年となりました。他方、入所期間が長くなり、生活に慣れてきたからこそ見えてくる問題も多くありました。保護期間中は学校への登校や外出が制限されます。その制限のある中で子ども達から出てくる課題もあります。登校や外出が自由にならないことが「日常」となっている子どもたちにとって、久しぶりに開催されたさんあいま

つりやクリスマス会といった園行事に参加することはより特別なものです。買い物や近隣へのお出かけも同様です。遊びや社会性を身に着けることも大切な権利ととらえて男女オリーブ合同での川遊びや水族館への外出、修学旅行に行くことができなかった小学校 6 年生だけを対象に公共交通機関を使つての鎌倉への一日小旅行も実施しました。このような体験から、子どもと職員の良い関係性が構築され、子ども達から職員へ個別で家族のこと、学校のこと、他の人には言えない我慢していたことを話してくれます。言語化できないけど、その児童なりに職員に気持ちを伝えようとします。これからも、そのような安定した関係性が構築できるよう取り組んでいきます。（小暮リーダー）

子ひつじ寮

今年度は模様替えと新しい試みを始めました。理事長からいただいた座卓をリビングに置き、ごろ寝スペースを作りました。部屋の中央にあった机を壁際に並べると職務室が広くなりました。個人ロッカーを購入し、利用者も職員も私物管理ができるようになりました。「自分の食器は自分で洗う」を目標に、食器をすべて個人持ちにしました。電気代節約のため食器乾燥機の使用をやめました。パンとご飯のトッピングを毎月 500 円以内で選べるようにし、自分で選ぶ楽しみを増やしました。環境を変えると利用者の行動も変わります。自分の物と他人の物を区別することで自分と相手の境界線を意識します。生活の中で自然に社会性を学べる寮を目指します。（佐藤）

小学校最後の運動会

1 年生の初めての運動会では初々しい表情で踊っていた子がもう 6 年生になり、小学校最後の運動会を迎えることになりました。徒競走やリレーでは思いっきり走っている姿に感動し、気付けば「〇〇ちゃん頑張って！」と無我夢中で大きな声で声援を送っていました。その声援に答えるかのように立派に走りきりました。最後はクラス全員で旗を抱え、保護者の目の前で、皆で大きな声で一言ずつメッセージを披露してくれました。クラス全員で一致団結することができ晴らしい運動会でした。（鈴木）

アニマルクラブ

6 月 9 日（日）アニマルクラブメンバー全員参加による『いのちの勉強会』を行いました。目的は、小さな命も大切にしようということで、学習スタイルは参加体験型です。子ども達にまずは、トカゲのお面をして「トカゲになってみよう！」と伝え、人間に追いかけられ捕まってしまう役をそれぞれ演じてもらいました。ドキドキする、とっても怖い、捕まえないで…等、子ども達からたくさんの感想が出ました。どんなに小さな生き物でも命はとても大切で大事にしなければいけないということを学ぶ機会になりました。子ども達には、さんあいでの飼育している動物はもちろん、すべての命あるものに優しく接することのできる子に育ってほしいと思います。（村尾）

中学校最初の体育祭

晴天の中、中学校の体育祭が開催され応援に行きました。担当している子が中学 1 年生になり、クラスで馴染めているのか？仲の良い友達はいっているのか？など、たくさんの心配事が頭をよぎりました。しかし、体育祭の当日はクラスの皆と力を合わせて競技を楽しみ、リレーは全力で走りきる姿、合間の休憩時間には友人達と集まり笑顔で話をしている様子を見て、心配は安堵に変わると共に、子どもの成長をひしひしと感じました。後日、記念写真が届き一緒に見ましたが、どの写真にも笑顔で体育祭を楽しんでいる様子が写っておりとても微笑ましかったです。学校行事を全力で楽しむのはもちろん、もうすぐテストもあるのでそちらも全力で頑張りたいです！（笑）（雑賀）

男の子オリーブ

一時保護ユニットでは、子どもの在籍日数に変動があります。日課の中には「学習の習慣を身につける・各学年に応じ、学習の遅れがないようにする」という目的で、学習時間も設けられています。この学習のためには学習ボランティアとして協力してくださる外部の方がおり、お世話になっております。ボランティアの先生たちの子ども達の状況や進度に合わせた教材選びや指導方法は、子どもたちにとって有意義であるだけでなく、それ以外の学習時間を支援する職員にとっても学びの機会となっています。ボランティアの先生たちのご協力を得ながら、子ども達は勉強に運動にと毎日、楽しく過ごしています。（新道）